奥山半僧坊道案内資料

「豊田橋跡から小松・金指・奥山半僧坊へ」

○　方広寺と奥山半僧坊

深奥山（じんのうざん）方広萬寿禅寺（略して深奥山方広寺）は臨済宗方広寺派（ともふし）の大本山で，後醍醐天皇の皇子，無文元選禅師が井伊氏の一族奥山六郎次郎朝藤の招きを受けて，建徳２年（１３７１）に開創した。本尊は釈迦牟尼仏，脇侍は文殊菩薩・普賢菩薩で観応３年（１３５２）の作。共に国指定重要文化財。境内の各所には五百羅漢の石像が安置されている。

奥山半僧坊は，奥山半僧坊大権現と呼ばれ，方広寺の鎮守である。半僧坊真殿に祀られている。

伝説によると，無文元選禅師が中国より帰国の時，海で暴風にあったが，鼻の高い一人の異人が現れ，船を無事博多の港に導いた。そして禅師が方広寺を開いた時，再び現れ，この山の鎮守とならんと言い，半ば僧に似ているところから半僧坊と名乗り姿を消した。以来方広寺を護る鎮守として祀られたという。

江戸時代の半僧坊信仰はふるわなかった。方広寺は，幾度か火災にあったが，明治１４年の大火で，半僧坊は類焼を免れたところから，たちまちすぐれた霊験をもつものと，信仰を広く集めるようになった。

厄難消滅・海上安全・火災消除・諸願満足の御利益があるという。

○　半僧坊道

半僧坊道は遠州を代表する信仰の道である。天竜川以西の半僧坊へのルートは，浜松中央から三方原，金指へのルート，豊田橋から笠井・小松（あるいは西ヶ崎）・三方原・金指へのルート，安間（あるいは池田橋）から市野・三方原・金指へのルート，宮口から都田・金指ルート，浜名湖東岸や北岸のルートなど，いくつもある。また，時代により道筋は変化している。

明治１６年に天竜川の池田橋や豊田橋が開通したことと合わせて，引佐・麁玉郡長であった松島吉平（十湖）が，明治１７年，諸国からの半僧坊への参詣者の便を図るために，音頭取りとなって，方広寺から浜松・本坂・市野・笠井・宮口，渋川等へ通じる道路へ町石を建立したと記録がある。明治十年代後半には多くの町石や道標が建てられた。

本案内資料は，**豊田橋から笠井・小松・三方原・金指へのルート**について，案内する。豊田橋のたもとにあった町石によると，半僧坊までの道のりは，

六里拾丁三十五間　（約２４．７ｋｍ）

である。

○　半僧坊道の復元について

本資料の道筋は，大日本帝国陸地測量部が明治２３年に測量した二万分の一の地図をもとにし，地元の人の話も参考にして，**明治十年代後半から二十年代初め頃の道筋**を現在の地図上に復元した。現在の地図は，国土地理院の「電子国土ポータル」を活用した。

○　参考文献

・建築新聞　２００９年５月　神谷昌志
・浜松の石造文化財　浜松市石造文化財調査会
・秋葉街道　静岡県教育委員会
・遠江の道しるべ　静岡新聞　昭和５２・５３年
・ふるさとよもやま話　細江町農業協同組合
・愛称標識の由来　都田地区愛称標識設置委員会
・浜松市石造文化財所在目録　浜松市石造文化財調査会
・半僧坊道の野仏と道しるべ　東海展望１９７５年１月～９月号
・遠州の寺社・霊場　神谷昌志・酢山隆　静岡新聞社
・遠州歴史散歩　神谷昌志　静岡新聞社
・わが町文化誌「笠井」　笠井公民館
・はままつ城めぐり　浜松市博物館
・浜松市博物館報１４号　浜松市博物館
・研究紀要１２－１号　静岡県立大学短期大学部
・浜北市史通史　上巻　浜北市
・東方見聞録　東区役所
・浜松の史跡　浜松市史跡調査顕彰会
・姥ヶ谷史　姥ヶ谷町内会
・わが郷土　人・仕事・心　浜松市立笠井中学校
・浜松の史跡　続編　浜松市史跡調査顕彰会
・愛称標識ガイドマップ笠井地区　浜松市
・浜松歴史散歩　神谷昌志　静岡新聞社
・静岡県明治銅版画風景集　羽衣出版
・郷土の住まい　静岡県の住宅　静岡県住宅振興協議会
・引佐の石仏　引佐町教育委員会

作成　平成２４年３月３０日　改訂　平成２６年６月２１日
浜松市浜北区寺島８１６　太田隆雄
ＴＥＬ　０５３－５８７－３０６３

半僧坊道

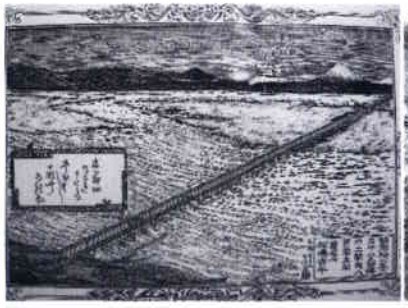
案内資料における半僧坊道の道標と町石

	資料番号	刻　　銘	建立年月
道標	NO.　３（２基）	左　半僧坊道	明治１５．８
		左　平口　気賀　金指道	（不明）
	６	（不明）	明治１７
	８	右　中善地わたし舟	明治１４．５
	１１	右　奥山半僧坊	明治１７．６
	２０	左　平口ふどう	（不明）
	２２	（左）半僧坊	（不明）
	２５	左　奥山半僧坊道	明治１７
	２７	右　奥山半僧道	明治１７．５
	２９	左　みやこだ　かなさし　けが道	明治２
	３１	右　半僧坊道	（不明）
	３３	左　かなさし道	（不明）
	３４	右　半僧坊	明治１５．４
	３５	右　かさいみち	宝暦
	３６	左　半僧坊道	明治１７．６
	３９	右　金さしをくやま道	大正元．１０
	４５	左　金指井伊谷奥山道	大正４ごろ
	追加	左　犬居秋葉道　右　浜松市野道	明和２．８
	４７	半僧坊へ	（不明）
	５５	左　奥山半僧坊ヱ	明治１８．７
	６９	半僧坊	明治１６
	７０	右　け賀　左　加さい	文化２．６
	追加	はうかう寺	（不明）
	７８	右　半僧坊大権現道	昭和１６．12
		以上は 半僧坊または半僧坊道に関わる 刻銘のみ表示	
常夜灯	７２	半僧坊大権現　　秋葉山大権現	安永５．12
	追加	半僧大権現　　秋葉大権現	（不明）
	９２	半僧坊大権現夜燈	文化４．１

	資料番号	刻　　銘	建立年月
町石	NO.　２	六里拾丁三十五間	明治１７．６
	１１（道標）	五里三十二丁四十六間	明治１７．６
	１４	五里十五丁	明治１８．４
	追加	五里十五丁	（不明）
	２２（道標）	（五里十）四丁	（不明）
	２４	（五里十）二丁	（不明）
	２７（道標）	四里三十壱丁	明治１７．５
	３２	四里廿六丁	明治１７
	３６（道標）	四里	明治１７．６
	追加	四里十（　　）	明治１（　　）
	３８	三里十（　　）	明治１７
	追加	貳里十九（丁）	明治１６
	４７（道標）	貳（里拾七丁）	（不明）
	追加	貳里九丁	明治１６
	追加	貳里八丁三十五間	明治１６
	５２	二里（　　）	明治３７．３
	追加	貳里二丁	明治（不明）
	５５（道標）	貳里四町	明治１８．７
	５６	貳里	明治１６
	６９（道標）	壹里壹丁	明治１６
	７０	三十六丁目	明治１５．６
	追加	一里	明治３７．３
	７４	二拾七町	明治１７．１
	７５（２基）	第拾貳（丁目）	明治１５
		（第拾）壹丁目	明治１５
	７６	十二（丁）	明治３７．３
	７７	第拾丁目	明治１５
	８２	第参丁目	明治１５
	８３	第貳丁目	明治１５
	８４	第壹丁目	明治１５
	９０	四丁目	（不明）．３
	（道標）は道標を兼ねているもの	（　　）は不明 （　　）内に数字・文字があるものは，推定できるものや他の町石や記録から推定できるもの	

１　豊田橋跡

天竜川豊田橋は明治１６年２月，豊田郡末嶋村（現浜松市豊西町）より豊田郡匂坂中村（現磐田市匂坂中）に架けられた有料橋で，長さ８１６間（約１４７０ｍ）幅２間（３．６ｍ）の木橋であった。松島吉平（十湖）などが架橋発起人となり「豊田社」を創立して経営した。交通上の便益は増し，地域発展に大いに役立ったが，６年後の明治２２年の洪水により流失した。完全復旧はできず，いつしか昔の渡船に変わり，土地の渡し守により細々と戦前まで続けられた。



豊田橋「静岡県明治銅版画風景集」（羽衣出版）より

残された橋脚

豊田橋が開通後，十湖は「春風も吹渡也橋あらた」「夏の夜や長き渡りの豊田橋」と句を詠んでいる。

豊田橋流失から１２０年，平成９年にかささぎ大橋が開通した。

豊田橋跡より家並みの間を半僧坊道が通っている。

２　半僧坊町石

かささぎ大橋の碑と並んで半僧坊への道のりを示す大きな町石が建てられている。正面に「奥山半僧坊　六里拾丁三十五間」，裏に「明治十七年六月建立」「末島村　川合貞一郎（他１２名の氏名）」と刻まれている。川合貞一郎は後の豊西村村長である。豊田橋開通直後の道標で，以前は豊田橋のたもとに建てられていた。

３　十湖百句塚と道標

百句塚は明治３９年に笠井町福来寺に大木随處・松島十湖らによって建立され，その後，御殿山から法永寺に移転し，平成２２年にこの地に移転築造された。芭蕉翁の句「ものいへば唇寒し秋の風」を中心に１００基以上の句碑が建てられている。

百句塚の入口横に，**２つの道標**が建てられている。もとは笠井上町より小松へ向かう半僧坊道の交差点にあったが，法永寺に移転後さらに百句塚と共にこの地に移された。１つは「左半僧坊道」「明治十五年八月建之」と刻まれ，もう一つは「直秋葉山　左　平口気賀　金指道」と刻まれている。

４　百人一句塚

百人一句塚は，御嶽神社境内に明治２９年松島十湖が当時の俳人たちを勧誘して建てたものである。地元の人たちが多いが，やや大きな一基には，芭蕉をはじめ，十湖の師匠である烏玉（有賀豊秋），夷白（栩木要右衛門）などの句が刻まれている。芭蕉の句「ふる池や蛙とびこむ水のおと」がある。

5　十湖池

豊田川沿いの堤防の西にあった池で，約１ｈａ程の広さがあった。慶応４年（１８６８）５月の暴風雨により天竜川堤防が切れ，その勢いでこの堤防も破堤した。濁流は水田のあった場所に底なしといわれるほど深い池を残した。地主であった松島十湖の名前から十湖池と呼ばれるようになった。昭和４５年豊田川の改修で一部が埋め立てられたが，現在ビオトープ（生物空間）として再生させ地元の有志が活動している。

松島吉平（十湖）邸の銅版画には，撫松庵へ西に向かう半僧坊道の曲がり角に，**半僧坊大鳥居**が描かれている。

6　撫松庵跡と道標

豊西町上公会堂の所に，明治１２年に松島十湖が建てた撫松庵があり，県会議員など政治家として活躍している中，閑詠自適の一時を過ごした。庵の前の築山に，芭蕉や俳諧の師であった夷白・嵐牛・烏玉などの句碑を建てた。そして引佐麁玉郡長を勤めていた明治１７年に「志らぬ間にふえた白髪や秋の風」の句を十湖第一号として建立している。

中央の大きな「陟岵瞻望碑」（親を懐かしみ仰ぎ見る）は明治２５年亡母の忌日にあたり建てた。

築山の西側にある**道標**は，「長上郡笠井嶌田勘□」「明治十七年建□」とあるが，その他は不明である。

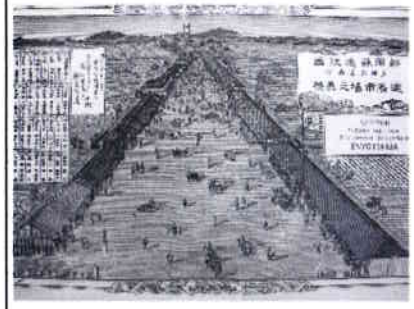
7　水難供養塔

公会堂北側の墓地には，明治１０年に建てられた天竜川水難者の供養塔がある。上に石仏が安置されたこの石塔は安政５年（１８５８）以降の水難者３０名の戒名と松島吉平（十湖）の碑文が刻まれ，その傍らにも明治１５年に建てられた石塔に７名の水難者の戒名が列記してある。いずれも松島吉平が建てたものである。

この水難者供養塔の左手に「西国三十三所順禮観音」「同行三拾七人」「元禄十二己卯年二月」（１６９９）と刻まれた古い石仏がある。

8　道標

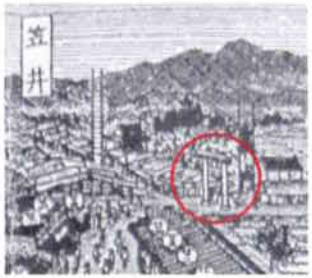
恒武町六所神社の前に道標がある。正面の上部に地蔵が彫られ，「右　中善地　わたし舟かすい斎　左　笠井二俣　道」，左面に「右　市野安間道」右面に「明治十四年己五月辰年二歳男設立」と刻まれている。元は道の東側に建てられていた。天竜川の渡しは明治１６年に豊田橋架橋により途絶えたが，明治２２年橋の流失により，再び渡しが戦前まで続けられた。



「静岡県明治銅版画風景集」（羽衣出版）

9　遠陽市場跡

江戸時代より笠井村では「笠井市」が開かれ，遠江国における流通経済の拠点であったが，出店商人の増加に伴い，明治２３年に豊西村恒武に新しい市場を開設した。浜松や各地の商人により合計４０の店舗が並び，賑わった。明治３２年には笠井街道が市場の中を通ったが，鉄道の開通や物産流通の変化などにより，賑わいは大正の時代と共に衰えていった。



半僧坊道はこの交差点を右折し，笠井の町並みに入る。遠陽市場の銅版画を見ると，この角の手前に**半僧坊鳥居**が描かれている。

北の養円寺には，**鳥居紀念碑**（明治３２年）と，この角に建てられていた**半僧坊の道標**（明治１７年）がある。

１０　町屋と店蔵

笠井の町屋は南北の道を挟んで西側と東側の二列に連なり，奥行きの長い細長い町屋となっていた。度々の大火により，石造り・レンガ造りの建物や土蔵造りの店蔵も見られた。本町の蔵店「**こうじや**」は明治２０年代の建築で笠井街道で最古という。大正の初め，みそ・こうじを作って売り始めた。また，中町の町屋造りの「鍋屋呉服店」は江戸時代終わり頃の創業で，当時は金物などをいろいろ扱っていた。その他街道沿いには「あぶらや」「おびや」「かまどや」「あまざけや」などの昔の屋号が残っているが，最近は町屋の建物が少なくなってしまった。

１１　道標と鳥居紀念碑

安国山養円寺境内に，大きな道標と鳥居紀念碑がある。

道標は表に「右　奥山半僧坊　五里三十二丁四十六間」，裏に「明治十七年六月建之」「石寄附　豊田郡掛下村　横井伊三郎（他３名）世話人　村田新平（他５名）」と刻まれている。もとは本町（下組）の南端の角にあった。

鳥居改築を記念する**鳥居紀念碑**は表に「半僧坊鳥居紀念碑」，裏に「明治卅二年五月建之」ほか寄附人と世話人の名を列記している。

１２　秋葉山常夜灯

中町の街道から西に入ったもと薬師堂の前にある常夜灯である。「秋葉山常夜燈」「中町講中」「御広前」「享和四甲子正月吉日」（１８０４）。石工は三河国岡崎十王町今井佐兵衛である。元は中町の街道沿いにあった。また，笠井町春日神社に，天保５年（１８３４）の秋葉山常夜灯があり，もとは本町（下組）南端の木戸付近に建てられていた。

１３　笠井観音

観光山福来寺の笠井観音（聖観音菩薩像の木造立像）が，笠井の里に現れたのは大同元年（８０６）。龜玉川が洪水になった後，川瀬で光を発していたものが発見された。井戸水で清め，笠をかぶせて，笠井の里の真ん中の大樹の下に安置してお祀りをしたという。願い事をよく叶えてくれる笠井の笠冠（かさかむ）り観音様と呼ばれて，参詣の人を集めてきたと語り伝えられている。

正月十日は，観音様の縁日と笠井市の初市の日で「だるま市・十日市」と呼ばれ，賑わう。約１２０年前からだるまが売り出された。観音様で左目に墨をいれ，祈祷してもらって持ち帰るのが習わしとなっている。

福来寺は，１７世紀の初期，寛永のころの創立と伝えられる。もともと笠井観音を守る寺として建立された。　**（Ｐ４「笠井市場について」参照）**

○笠井市場について

「笠井市」は，湖北の「金指市」，北遠の「二俣市」と共に，江戸時代遠江における流通経済の拠点として大きな役割を果たした。

笠井村は皆畑の村で，収穫量が少なく，年貢は金納で負担が重かった。そのため村人は農作物や手工業品などを売ったり，古着などを買い出してきて市で売ったりして換金した。また，近郷のものたちもとれた産物などを売ったり交換したりした。さらに城下の商人たちが表店を借り受けて商売をしたので，その貸し賃を得た。特に塩町の専売である塩，肴町の専売である海産物を求めて市の日には多くの人が集まり，笠井市を繁栄させたという。

市は，朔日・五日・十日・十五日・二十日・二十五日の六斎市で，上組（上町）・中組（中町）・下組（本町）の三組で交互に月２回ずつ開かれ，それぞれ上市・中市・下市と呼ばれた。

幕末から明治の初期には，新たな技術導入により遠州綿業・生糸業の基礎がつくられ，笠井市場は，繊維製品の取引が大きなウエイトを占めるようになった。明治２３年には遠陽市場も開設されたが，東海道本線の開通や経済交通運輸など時代の変革とともに大正時代には衰退していった。

今では１月１０日の市神様の祭典や笠井観音（福来寺）の「だるま市・十日市」が昔をしのぶよすがとなっている。

１４　半僧坊町石

笠井観音（福来寺）の裏通りを少し北へ進み，細道を左折して進むと，半僧坊町石が建てられている。正面に「五里十五丁」，左面に「長上郡上村　鈴木和三郎　鈴木勝馬」，右面に「明治十八年四月□□」と刻まれている。この道は寺島大伝寺前の半僧坊道に向かう近道の細道である。

１５　十湖俳句の里（源長院）

曹洞宗源長院は松島十湖の菩提寺である。長屋門造りの山門がある。十湖（吉平）は，嘉永２年（１８４９）豊田郡中善地村（浜松市豊西町）に生まれた。幼い頃，源長院住職西尾恵全に読み書きを学ぶ。１５才で栩木夷白に俳諧を学び，１７才で宗匠となり，名を知られた。小田原の福山滝助翁から報徳仕法を学んで実践し，また県会議員，引佐麁玉郡長など地方政治家として活躍した。

俳句の里には十湖の句「世の中に箒あてばやすすはらい」「浜松は出世城なり初松魚」の他，門人知友の句が並んでいる。

１６　服織神社

社伝によると，創建は奈良時代元明天皇の和銅元年（７０８）。延喜式神名帳に所載の式内社とされている。祭神は天穂日命（あめのほひのみこと）と建御名方命（たけみなかたのみこと）。古事記によると天穂日命の二十数代のちにあたる者が遠江介に任ぜられ，遠江とかかわりをもつようになったという。天穂日命は織物をつかさどる神であり，創建当時このあたりに織物に関係をもつ職人の集団がいたことをうかがわせる。境内からは奈良時代の須恵器・土師器などが発見されている。境内には明和７年，文政９年の秋葉山常夜灯や小栗廣伴（おぐりひろとも）の和歌の碑が建てられている。

１７　かなきんさま

服織神社のすぐ南に祠がある。祭神は，昔この土地の困っている人を救ってくれた高名な武将とも高僧ともいわれている。祠は，いぼ神様として地域の信仰を集めている。いぼをとってもらうには，住所，氏名，年齢を書き，洗米と賽銭をあげ，願いが叶ったときは小さな鳥居（木製かブリキ製）または松笠（３０個位）を奉納するという。祠に祀られているのは，１４世紀半ばごろ造立の宝篋印塔（高さ約１１０ｃｍ）である。祠が建てられる以前，この場所に中世の墳墓があり，その上に宝篋印塔が建てられていた可能性が高い。

１８　半僧坊道標跡

笠井上の交差点に道標２基あったが，法永寺に移され，さらに豊西町の「十湖百句塚」に移されている。１つは「左半僧坊道」「明治十五年八月建之」と刻まれ，もう一つは「直秋葉山　左　平口　気賀　金指道」と刻まれている。

（Ｎｏ．３参照）

半僧坊道は笠井上交差点を左折して，笠井上町から浜北区寺島方面に向かう。

１９　蓋極地蔵尊

今から１５０年も前の悲恋の物語がある。松小池村の源右衛門の娘お松が笠井上村の権七と恋仲になったが，源右衛門に許されず，ふたりは松小池の池に入水した。ふたりはそれぞれの村の墓地に埋葬されたが，夜になると松小池から上村に向かう怪火を見た人々が次々と現れた。源右衛門は反省して改めて一つの墓に埋めて供養したとのこと。権七の住んでいた所には，お地蔵様が祀られた。上村の字名をとって「蓋極地蔵尊」とも「お松地蔵」とも呼ばれる。

２０　道祖神

双体道祖神で，風化が進んでいる。下が少しコンクリートの台座に埋まっている。村境や辻に建てられた魔除けや行路の安全の神である。男女の神は良縁，出産，夫婦円満などを願うものでもある。双体道祖神は浜北区では二基のみという。左側面に「左平口不どう」と刻まれ，以前は，右面に「右宮口庚申」あるいは「辰」の文字が読みとれたという。

２１　水野久平の碑

寺島大伝寺の入口左手に，町の発明家といわれた水野久平の碑がある。江戸時代から笠井周辺では木綿の栽培が行われ，笠井市場はその集散地として木綿が取り引きされた。明治十年代には笠井縞から遠州織物が発展し全国的に知られた。この時期，久平は笠井に来て織物の研究，改良，数多くの発明考案により，遠州織物の品質向上発展に寄与した。通称「機具久さ」と慕われた。この碑は昭和九年三月，弟子たちによって建てられた。

また，大伝寺には侠客寺島一家を継いだ都田の源八と子の常吉・梅吉たちが眠る墓があり，供養されている。

２２　半僧坊町石

さがり橋を渡って最初の小さな交差点の左角に，ブロックで囲まれた町石がある。正面上部の文字が欠けてしまっている。「□□四丁」と読める。建立年月は不明である。おそらく五里十四丁の町石と思われる。半僧坊道は袴田誠二氏宅の前を斜め左に曲がっていた。町石はもとはその曲がり角にあったという。

２３　秋葉山常夜灯

龍燈（鞘堂）内の秋葉山常夜灯には「秋葉山夜燈」「明和五年戊子霜月吉祥日」（１７６８）「寺嶋村郷中」と刻まれている。秋葉山常夜灯としては古い時期のものである。池田・笠井より「秋葉街道貴布祢の道標」に向かう道に沿って建てられており，もとは少し南にあった。

２４　半僧坊町石

袴田誠二氏宅前から西に進むと，市川正昭氏宅の向かいに町石がある。もとは少し東にあったという。上部が欠けている。正面に「□□二丁」，右側面に「大村武平　中安吉平」と刻まれている。おそらく五里十二丁の町石と思われる。大村武平は，明治１０年代の寺島村戸長である。